

高津おはなしアーカイブ

森 郁子（もり ふみこ）さん

昭和8年生まれ 83歳

川崎市高津区久末在住



◆久末の農家に生まれる

高津区久末の表久末（おもてひさすえ）大谷戸の農家に生まれました。

5人兄弟の次女で、父と母、兄と姉、弟2人、祖父母、叔父もいてにぎやかに暮らしていました。

今は、舗装され市バスが通る明るい坂道がありますが、当時は「暗闇坂（くらやみざか）」と言われる、夜は真っ暗な坂道でここは怖かったですね。

母は関節性リウマチ炎を患っていて、記憶では寝たきりの姿ですね。私が19歳の時に48歳で亡くなりました。

私はおばあちゃんが大好きで小さい頃は一緒に寝るほどの「おばあちゃん子」でした。

◆裸足で小学校へ通う

小学校は4年生までは橘小学校、5年生で野川小学校に転校しました。

戦争が始まって強制疎開者が増えて、橘小学校がいっぱいになり、野川小学校に転校したんです。橘小学校へは麴屋坂（こうじやさか）と呼ばれる急坂を登って、近くの友達とおしゃべりしながら30分以上歩いて通いました。

野川小学校へは、堤づたいに友達とおしゃべりしながら通いました。

今は舗装されバスが通っている道も、当時は、道幅も細く砂利道でした。駒下駄かぞうりを履いて、学校に通っていたので雨が降ると裸足で行きました。だから学校には足の洗い場があったんです。学校につくと、まずそこでじゃぶじゃぶ足を洗ってから教室に入りましたよ。

橘小学校は男女別クラスで、1クラス45人くらいいましたかね。野川小学校は男女一緒に、30人くらいだったでしょうか、人数は橘小よりも少なかったです。

学校にはお弁当を持っていきましたけど、たいしたおかずはなく、ほとんど毎日麦ごはんと梅干しでした。

中学校は今の西中原中学校（当時は大戸中）に通いました。

◆お米とジャガイモの二毛作も

家は農家で、夏は、キュウリ、ナス、トマト、カボチャ、冬はダイコンやハクサイなど、1年を通して野菜を作っていて手伝いが忙しかったです。

お米も作っていて、畝を高くしジャガイモを植えて二毛作もやりましたよ。

◆農作業は親戚で「手伝いっこ」

田んぼを耕すために牛を1頭飼っていました。田植えは、すべて手植えだから、腰が痛くなってね。大変でした。

親戚が手伝いに来てくれて、昔はいろいろな農作業は親戚同志で「手伝いっこ」したんですよ。

お茶摘みもしました。摘んだお茶の葉を蒸して、冷まして、おじいちゃんがお茶に作ってくれました。

今はお茶の木はこのあたりではあまり見なくなりましたが、昔はこのあたりにずーっとお茶の木があって、自分の家で飲むお茶を1年分作ったんです。今は山の方に1本だけお茶の木が残っています。

◆食べるもの、着るものは自分で作る

野菜やお茶の他に、味噌も醤油も自分の家で作っていました。醤油は搾ってくれる人が来てくれて、搾った醤油の色は薄くてしょっぱかったですけどね。麴も家で作りました。

小学校の頃に何を着ていたかはあまり覚えていないんですが、今でいう四つ身（4、5歳から10歳くらい子どもが着る着物）に三尺しめて、学校に行きました。そのうち洋服でも行くようになって。姉が器用で縫物が好きだったんですね。おばあちゃんの銘仙の着物をこわして6枚のはぎのスカートを作ってくれたことはよく覚えています。

◆地域の人同士親しみがあつた

小さい頃は女の子同士で集まってお手玉、鞠つき、かくれんぼ、鬼ごっこなどをして遊びましたね。

お隣さんの家の敷地を歩いて上の家に遊びに行きました。お隣さんに「また遊びに行くの」ってからかわれたりしてね。

平気で他人の家を歩いて行き来ができた、それだけ地域の人同士、親しみがあつたことですかね。

◆畑で空襲を体験。畦に身を隠す

父は身長が足りないということで、戦争には行かなかったんです。母は戦争が始まった頃はすでにリウマチを患いながらも戦争中は家族全員揃って暮らしていました。

今の市営住宅が建っているあたりに兵隊さんがいて、そこをめぐって空襲があつたんです。畑に一人で行っている時に焼夷弾を積んだ爆撃機が低空飛行で飛んできて、畦に急いで身を隠したんです。あの時は本当に怖かったです。

私の年代は、勤労奉仕もなく戦争を過ごしましたが、姉は学校から工場に行つて戦争に使うものを作っていました。

◆戦争中は近くのお寺で勉強

終戦の日はラジオの前に座って天皇陛下のお言葉を聴きました。「これで、逃げまどわなくていい」って思いましたね。

戦争が激しくなつてきて、学校にも行けず、近くの蓮花寺（れんげんじ）というお寺に小さい子から大きい子までみんな集まって勉強していたんです。

学校に行く時は年中防空頭巾をかぶつ

て行ったんですものね。

家が農家だったので、食べ物には困ることはなかったです。着物をもって、お米に交換に来る方もいましたね。

◆父は牛車で東京に野菜売りに

中学を卒業してから、和裁を少し習いにいきましたが、それを仕事にするところまではいかなかったんです。その頃からずっと農家の手伝いをしてきました。

夏は5時に起きて、畑で野菜を収穫。父はリヤカーで今の丸栄建材があるあたりに共同出荷所があつて、そこに持って行ってました。脇に野菜の洗い場もありました。今は子どもの洋服を売る店（西松屋）になっています。

牛車（うしぐるま）もあつて、父はそれを引いて、東京まで野菜を売りに行つてました。兄が手伝うようになってから車になったように思います。

◆歩いてお嫁入り

私は昭和33年に結婚してここにきました。着物を着て山の向こうの表久末から歩いてお嫁に来たんです。あの頃は車なんてなかったですから…。

お仲人さんは今、畑を作っているところのお隣さんのおじいちゃん、おばあちゃん。二人も着物を着て歩いて私を連れてきてくれたんです。昔は村から村へと嫁いだんですね。

夫とは同い年で小学校の頃から知っていました。14年連れ添い、38歳で癌で先立ちました。それから私はおじいちゃんと一緒にずっと農業をやってきました。

◆共同出資で作った「久末マーケット」

この地域にお店がなくて不便だったので地域住民で出資して株式にして「久末マーケット」を作りました。

できた年ははっきり覚えていないんですが、夫が亡くなってからだったように思います。今も八百屋さんとお菓子屋さんを残っています。歩いていけるお店は有難くて、お菓子屋さんで食べたいパンを買ったりしていますよ。魚屋さん、乾物屋さんも以前はあつたけどなくなってしまいましたね。

買い物はバスが通ってから新城によく行きました。新城に直通で行くバスはないので、千年でバスを降りて巖川橋をまっすぐ行けば新城に出ますものね。新城は賑やかな商店街があつて好きな街です。

◆手作りのあられは手土産に

自家製のあられはずっと作り続けています。昔はお餅も家であつていたけど、今はついたお餅を買ってきて和室にゴザと紙を敷いて、襖を閉め切つてお餅を自然乾燥させるんです。風に当たるとお餅にひびが入ってしまうからね。それからオーブントースターで煎りあげて作ります。これ、手土産にするととても喜ばれるんですよ。



◆昔からの習わしを守り続けて

昔はおせちも全部家で作りましたが、今は作らなくなりました。

でも、どんと焼きの日は、今でもその日に餅をついてもらって、のし餅にして竹にさして6人家族だから6本を持って焼いてきます。以前は久末神社でしたが、神社が焼けてしまい、人も増えて、久末小学校でどんと焼きをやっています。大勢の人が来ますよ。

ひな祭りには菱餅を買って、神様にあげます。端午の節句には神さまと仏さまにお菓子をあげます。

お盆は8月13日の6時にお迎えに行きます。テーブルを出し、お位牌を全部並べて、採れた野菜を供えます。3食あげるものが決まっていて、朝は、カボチャ、ナス、インゲンの3色の煮物をします。15日は仏さんが帰る日。お昼はおそうめんですが、夜は「仏さんが急いで帰るから」とお醤油でご飯を炊きます。送るのは16日の朝です。みそはぎという花を半紙で巻いて、水をあげてナスにかけるんです。

暮れになると神棚に大根締めを買って、お札は神社に頼んで買います。

昔からの習わしはずっとやってきました。若い人には「無理なくていいよ」と言っていますが、息子たちは「やるもの」として受け止めているようです。自分が元気でいればできる、そう思っています。

(平成28年11月14日取材)